

研究主題

「幼児が自ら安全な遊び方や生活の仕方を考え、工夫できる指導について」
— 幼・小の連続性を視野に入れた生活安全、交通安全、災害安全を
柱とした安全教育の在り方—

1 題材名

「自分の命は自分で守る

— 災害時の避難の仕方が分かり、落ち着いて行動する幼児を育てる—」

3年保育4歳児

2 学年の実態

<生活安全>

- ・ 幼児のほとんどが高層マンションに住み、日常生活の中で階段を使用することが少ないため、階段の昇降に不慣れであり、時間がかかる。そこで、併設されている小学校施設（体育館、屋上など）の利用を通して、階段を昇降する機会を設けている。経験を重ねる中で、階段の昇降に徐々に慣れてきている。
- ・ 校庭の固定遊具が児童向きのため、幼児の発達にそぐわないものがある。安全を確保するために、幼児が遊べる遊具の種類や、その高さを決めて行う中で、幼児なりに目当てをもって取り組んでいる。
- ・ コミュニティ道路の使い方の約束が分かり、遊びや時間に応じて有効に使う姿が見られる。

<交通安全>

- ・ 毎日の登降園に加えて、近隣施設を利用した遠足やプールの往復を繰り返し経験する中で、歩道の歩き方や横断歩道の渡り方、雨の日の歩行を身に付けてきた。

<災害安全>

- ・ 避難訓練では、サイレンが鳴るとすぐに静かにして放送や教師の話を聞こうとする幼児がほとんどである。
- ・ 幼児の中にはサイレンの音を聞くと気持ちが焦り、防災頭巾を正しく被ることができない幼児もいる。

3 第一学期のねらい（○）指導内容（・）

○避難訓練の約束を再確認し、約束を守って避難しようとする。

- ・ 新しい保育室からの避難経路を知る。
- ・ 放送を聞き、災害の内容について知る。

4 本時の展開

<ねらい>

- ・ いろいろな場に応じた身の守り方を知る。
- ・ 園庭での地震発生時の身の守り方を知り、落ち着いて行動する。

<評価規準>

- ・ いろいろな場に応じた身の守り方について知ることができるか。
- ・ 園庭での地震発生時の身の守り方が分かり、落ち着いて行動することができるか。

<指導の実際>

	幼児の活動	◎援助 ・留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○先行経験を思い出す。 ・各保育室で集まっているときに、地震が起きた場合の行動の仕方について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の仕方について投げかけ、一人一人が意識をもって考えられるようにする。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園内の各場所や状況に応じた身の守り方を知る。 ・保育室で地震が起きた場合の身の守り方について考える。 「机の下に隠れる」 「危険なもの（窓ガラス、水槽、棚）から離れる」 ・保育室で机が出ていない場合の身の守り方について考える。 「蛍光灯のないところに行く」 「体を低くして、頭を守る」 ・保育室内で安全な場所を確かめる。 ・遊戯室で地震が起きた場合の身の守り方について、写真を見ながら考える。 「積木や巧技台、ピアノから離れる」 「蛍光灯のないところで、体を低くして頭を守る」 ・トイレや廊下で地震が起きた場合の身の守り方について、写真を見ながら考える。 「トイレからは、先生の部屋（職員室）が一番近い」 「自分がいる場所から一番近い部屋に行く」 ・園庭にいるときに地震が起きた場合の身の守り方考える。 「窓が割れるかもしれないから、建物から離れる」「校庭の真ん中に集まって体を低くする」 	<ul style="list-style-type: none"> ◎幼児が興味をもち、また、具体的に考えられるように、視覚的教材（パネルシアター、写真など）を用意する。 ◎場や状況の特徴について具体的に知らせる。   <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の話を受け止め、みんなに知らせる。 ◎「自分の部屋（保育室）にいないときに地震が起きた場合は、今いる場所から一番近い部屋に行ったり、近くにいる先生の話の聞いたりしましょう。」
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○園庭で遊んでいるときに地震が起きた場合の避難を実際に行う。 ・園庭の好きな場所に行き、合図が鳴ったら園庭の中央に避難する。 ○災害時の身の守り方について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎避難の仕方について分からない幼児には、個別に声をかける。 ・災害時の身の守り方について簡潔に確認する。

<評価・反省>

- ・視覚的教材を用いることで幼児が興味をもって話を聞くことができた。また、実際の状況を思い浮かべながら具体的に考えることにつながった。
- ・園庭で遊んでいるときに、地震が起きたと想定して実際に避難を行ったところ、保育室での『机の下に隠れて頭部を守る』という指導が印象に残ったためか固定遊具の下に隠れる幼児がいた。状況に応じた適切な避難の仕方を身に付けられるように、今後も引き続き指導が必要である。